

生涯学習情報紙

2025



発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第378号

第67回大和村ナイターソフトボール大会
大棚Aチーム 優勝

学芸員の大和村
あまくま訪ね歩き



令和7年4月14日～24日、大和中グラウンドにて、第67回大和村ナイターソフトボール大会（大和村ソフトボール連盟主催）が開催されました。

5日間にわたり、9チームが熱戦を繰り広げました。トーナメント方式で行われ決勝は、大棚Aチームと大棚Bチームの同集落対決。互いに負けられない試合を制したのは大棚Aチームで、3年ぶりに優勝となりました。

○優勝 大棚Aチーム
○準優勝 大棚Bチーム
○最優秀選手 伊集院 将（大棚Aチーム）

思勝集落に残る開墾地名

今から約20年前、『大和村誌』編纂事業のお手伝いをさせていただいた時に思勝集落の方から、学校校庭から環境省があるあたり一帯は、薩摩藩の時代に開墾された場所で「シャーク」と呼ぶと教えていただきました。

奄美群島が米軍占領統治下に置かれていた昭和26年（1951年）に、当時の「思勝小学校」に勤務していた菊池義顕教諭により出版された『浦内沿革誌』という冊子があるのですが、その中にも次のような記載があります。

「小学校下方の伊府邑は、藩政末頃大洪水によって思勝川が氾濫し、下欽田袋に奔流、砂礫の自然堤防を築いた。早速大掛りで流路は元の通り直したが、自然堤防は取り去ることが出来ず、幸いか不幸か其の地に人家移動して居住地になったのである。」

ここには思勝集落の大和川沿いの様子が書かれていて、「伊府」がイフー（学校下側の思勝川左岸一帯）、「下欽」がシャークと呼ばれている場所にあたります。

「シャーク」という地名ですが、薩摩藩により開墾された土地という言い伝えが重要な手がかりになります。薩摩藩では、武士が藩の許可を得て、自費で土地を開墾すると、その土地は自分の土地として所有できるようになる制度がありました。そうした自費負担の土地開墾制度を「仕明」と呼んでいました。ですから、「シャーク」という地名は、おそらく「仕明」を意味していると考えられます。

関連して、奄美大島に安木屋場（龍郷町）、加計呂麻島にも安脚場という集落がありますが、この「アンキャバ」という不思議な地名も、この「仕明」と関係があるのです。いずれの集落も、薩摩藩統治時代後半の新田開拓で形成された集落です。おそらく仕明場（シアケバ）の意味で、シアケバ→（発音しにくいシガ欠落）アケバ→アンケバ→アンキャバと考えられます。



6月は食育月間

6月1日～30日は、食育月間です。食べることは生きることであり、健康な身体と心を育むことにつながります。栄養のバランスや食品ロス削減などについて、正しい知識を身に付けましょう。

- 1 バランスよく食べよう
- 2 食べ残しをなくそう
- 3 和食文化を伝えよう



毎月19日は『育児の日』
第3土曜日は『青少年育成の日』
第3日曜日は『家庭の日』

